氏　　名	今　川　　敦
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　3790　号
学位授与の日付	平成２１年３月２５日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: results and degrees of technical difficulty as well as success （早期胃癌における内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の治療成績と技術的難易度）
論文審査委員	教授　田中 紀章　教授　公文 裕巳　准教授　土井原 博義

学位論文内容の要旨

【背景】早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は高い完全一括切除率や 20mm 以上の病変切除が可能なことが利点であるが、穿孔のリスクも高く、高度な技術が必要である。技術的難易度は病変性状により左右される。その傾向を明らかにするため、当院での治療成績を検討した。
【方法】2002 年 1 月から 2005 年 11 月までに胃 ESD を行った 196 病変（185 症例）を対象とし、病変性状により分類し、その完全一括切除率、施行時間、穿孔率を比較した。病変性状は①病変サイズ：20mm より大きい vs. 20mm 以下、②病変部位：U 領域 vs. M 領域 vs. L 領域、③潰瘍瘢痕：有 vs. 無で分類した。
【結果】全症例における完全一括切除率は 84%、穿孔は 6.1%、平均施行時間は 68 分であった。完全一括切除率においては病変サイズ、病変部位によって有意な差を認めた。施行時間では病変サイズ、病変部位だけでなく潰瘍瘢痕の有無によっても有意な差を認めた。穿孔率では病変部位、病変サイズによって有意な差を認めた。以上より病変サイズが 20mm 以下で、L 領域に位置する、潰瘍瘢痕の無い病変が最も難易度が低いとされた。
【結論】胃 ESD の技術的難易度は病変サイズ、病変部位、潰瘍瘢痕の有無で規定される。

論文審査結果の要旨

本研究は早期胃癌に対し内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)が行われた 185 症例の治療成績を検討したものである。

全症例における完全一括切除率は 84%、穿孔は 6.1%にみられ、平均施行時間は 68 分であった。完全一括切除率および穿孔率は病変サイズ、病変部位によって有意な差を認め、さらに施行時間はこれらの要因に加え腫瘍瘢痕の有無によっても有意な差を認めた。

胃 ESD の技術的難易度は病変サイズ、病変部位、潰瘍瘢痕の有無で規定されることは、本技術習得のため指導指針として有用な知見である。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。